

第24期第5回 札幌市スポーツ推進審議会 議事録（概要版）

日 時：平成26年2月5日（水）午前11時開会

場 所：STV北2条ビル 地下1階 A会議室

1 開 会

2 議 事

（1）議題 札幌市スポーツ推進計画（案）について

ア 前回以降の検討状況等について

○霜觸会長

早速、審議に入りたい。

前回の審議会以降、変更した内容等について、事務局から説明をお願いしたい。

○事務局（石川企画事業課長）

（説明）

○霜觸会長

ただいま説明のあった内容の変更について、みなさまからご意見を頂きたい。

○晴山副会長

全体的に、スポーツを愛好していたり、スポーツを自分の専門分野として学んでいる学生の活用のようなものが、どこにもない。そういうものを入れるのがいいのかどうかは分からないが。

○霜觸会長

端的に言えば、学生をボランティアとして活用していくということか。

○晴山副会長

ボランティアだと、本人の意志で自由という部分が強い。

北翔大学では、国際スキーマラソン大会の時にイベントの支援をしている。

○霜觸会長

学生を、スポーツ振興の人材として活用するという表現が必要ということか。

○事務局（石川企画事業課長）

計画案の中で、学生という言葉はない。

○霜觸会長

札幌市全体では、学生数は相当なものである。

○晴山副会長

北翔大学では、ボランティアではなく、科目¹として行っているはずである。

○霜觸会長

そこに働きかけて、積極的にこちらの事業に引き込んでいくということか。

○晴山副会長

例えば、雪かきのような取組で活用するということである。

雪かきについては、他の分野でも気になったのだが、雪かきをこのような表現で表すと、札幌市が除雪にかかる費用を削減するために利用しようとしていると取られはしないか。確かに雪かきと運動について研究している研究者もいるので、それは分かるのだが。

もう少し明るく表現することが必要であり、例えば、市立病院では、婦人を中心としたボランティアの方が集まって、除雪をした雪を利用して、雪像やランタン等を作っており、華やかで明るい感じがする。そういったもので、もう少し地域に広がっていくようなイメージができる表現になった方が良い。

雪かきも体力向上の手段だというのは、ちょっと受け入れ難いものがある。

○霜觸会長

現在、雪かきをスポーツ化しようという動きがあり、小樽では競技会もやっている。段々広まっていくと思う。

もう一つは、家庭で親と一緒に雪かきをするという行為が、自然と子ども達の身体の発達につながり、同時に親子のコミュニケーションづくりにも役立つ。そういう活用の仕方もある。

前向きに捉えていきたいというのは、よく分かる。項目としては良いと思うが。

○晴山副会長

今、お話を聞いて内容は分かったが、そういう内容が分かるように、もう少し広がるような表現の方が良い。

○霜觸会長

雪かきとは、いいところに目を付けたと思う。子どもにもしっかりと手伝わせることは大事だと思う。ただ、それをスポーツとして捉えるかどうかは別であり、その辺の表現かと思う。

秦先生、学校では「雪かきを手伝いなさい」と言っていないか。

○秦委員

学校では「雪かき汗かきチャレンジ」という事業があり、雪かきを何回行くと表彰する、という取組を行っている。また、先日は、北海道日本ハムファイターズの監督が北野中学校の生徒と、地域の雪かきボランティアをしていた。

ただ、札幌市の教育の中で「雪」、「環境」、「読書」という、3つの札幌らしい取組があるが、その取組を「雪」の中で行っているのかどうかは分からない。

¹ 北翔大学には、スポーツ教育学科の科目として「地域支援実習」、「スポーツマネジメント」がある。

それをスポーツと捉えるかどうか。体力づくりという面では考えられるが。

○晴山副会長

雪かきは身体活動である。今の若い人は、雪をすくって投げるという事を経験しておらず、できない。

○伊藤委員

近所の小学校では、夏はラジオ体操、冬は雪かきカードが配られ、雪かきをしたらスタンプを押してもらい、10個溜まったら表彰する取組²をしているということを知ったことがある。スポーツではなく、お手伝いの部類なのかと感じる。

○晴山副会長

広い意味では身体活動であるが。

○霜觸会長

注釈で、雪かきも立派な身体活動である、と入れてみるのはいかがか。

○秦委員

「今後検討要する取組」に入っているので、それで良いと思うが。

○霜觸会長

雪かきはスポーツだ、ということになっていけば良いが、今の段階では書ききれない。項目に入れたことは良いと思うが。

○晴山副会長

冬の暮らしを「通した」ではなく「いかした」として、「雪かきなど冬の暮らしをいかした健康づくり」の方が良いと思う。

○霜觸会長

18Pの施設の記載について、建設から40年以上経ったスポーツ施設は2つのみということで、20年以上が経過したスポーツ施設の老朽化が進行しているという記載になったが、老朽化という言葉が適切かどうか。

○事務局（都築施設課長）

建設から大体10年を経過すると計画修繕を始めなくてはならないが、実際のところ、計画修繕にお金を投じてこなかったことから、施設が老朽化しているという実態がある。

一般のマンションでもそうだが、計画修繕をきちんと行っていれば、古いから老朽化しているとは言わないのだが。

○晴山副会長

老朽化の進行を抑えるとか。

○霜觸会長

それであれば「～施設も多く、計画的に修繕していく必要があります。」という表現の方が良い気がするが。老朽化が進んでいるというのは、どうも気になる。

² 前出の「雪かき汗かきチャレンジ」と同じ取組。

○堀内委員

鉄筋コンクリート造であれば、メンテナンスさえしていれば、40～50年もつ。その辺の表現をきちんとすれば、20～30年経った既存の施設は、データとして表示してもいいと思う。

○晴山副会長

この項目のタイトルを「老朽化の進行を抑える」や「進行を遅らせるために計画的な保全が必要」としてはどうか。

○霜觸会長

この表現では、なんとなく、全体が駄目になっていくようなイメージである。直していけば、まだまだ十分使える。

○堀内委員

行政としてはメンテナンスの問題である。耐用年数としては鉄筋コンクリート造であれば40～50年もつ。データの表示をしていれば良いと思うが。

○霜觸会長

表示はあった方がよい。

○堀内委員

その他に、教育委員会の会議の中で、一番働かなくてはいけないスポーツ推進委員と体育振興会の問題が取り上げられている。

各区のスポーツ推進委員の選任の仕方については、区から地域ごとの人数の割り当てがある。もし欠員が出た場合、同じ区の中で補完するような仕組みがあれば良いと思うので、区の選任の仕方を、事務局でよく考えてほしい。

もう一つの課題は定年制の問題である。スポーツ推進委員の役割は、これまでの競技指導者と違い、これからは企画運営や地域の連絡調整である。現在は65歳で定年、附則で70歳までとなっているが³、今、70歳であれば、まだまだ活動できる人はたくさんいる。意欲があっても、定年で自動的に辞めなくてはならない。

今、各区のスポーツ推進委員の会長からも、定年制を廃止してくれないかという話はある。定年となる年齢の緩和については行政ともタイアップして検討しなくてはならない。

○霜觸会長

体育協会も、北海道体育協会は73歳、日本体育協会は70歳である。大体どの都道府県も70歳となっている。これについては、また別の機会に議論してみたい。

イ パブリックコメントの実施結果について

○霜觸会長

³ 札幌市スポーツ推進委員の選任等に関する要綱第12条（選任要件）において、「年齢は、新任者については任命日において20歳以上65歳以下の者とし、再任者については当該任期中70歳以下の者とする。」と規定している。

パブリックコメントの結果はいかがか。

○事務局（石川企画事業課長）

（説明）

○堀内委員

障がい者のスポーツ指導については、スポーツ推進委員もその辺のノウハウが分からないので、保健福祉局と協働でイベントを実施する等、タイアップしていくことが必要。

それから、体育振興会という名称について、現在、全国的に総合型地域スポーツクラブという名称が使われているが、札幌市は、過去からずっと体育振興会で通している。名称を変えたり、PRの仕方を変えた方が良いのではないかと思う。

○霜觸会長

是非、素晴らしいネーミングを、検討していただきたい。

○山本委員

今の件に関しては、僕も同じような意見である。

地域スポーツクラブに関しては、47Pに書かれているが、他の施策とのバランスを見ると、非常に薄い印象を持つ。

札幌型の地域スポーツクラブを独自につくっていくということは良いが、一方で、クラブ間連携を推進するような取組が必要である。今、北海道のスポーツ団体で、横に連携しようとしている組織団体がある。SC北海道ネット⁴や全国SCネット⁵等、地域スポーツクラブが横のつながりを見せ始めている動向を勘案したような内容として、ネットワークの促進のようなことも盛り込まれると良い。

地域でスポーツクラブをつくることを推進する、又は地域でつくることを手伝うということが最初のステップだとして、できているクラブが情報交換をしたり、人材交流をしたりすることが次のステップである。15年前、10年前であれば、クラブをつくることを助けるだけで良かったのかもしれないが、一方で、育っているクラブや体育振興会は、後継者不足や経費等、運営面で新たな課題を抱えている。そういうものを支えていく枠組みも必要である。

そこが補足されると、この項目がもう少し厚く書かれて、イメージとしても良い気がする。

○霜觸会長

スポーツクラブの支援の部分ということになるか。

○山本委員

今回、新たに加えるのは無理かもしれないが、ニュアンスとしては、育成支援に対して自立支援。例えば「スポーツ振興」から「スポーツ推進」という段階、種を

⁴ SC北海道ネット：「総合型地域スポーツクラブ北海道ネット」のこと。平成21年1月設立。

⁵ 全国SCネット：「総合型地域スポーツクラブ全国協議会」のこと。平成21年2月設立。

まいて芽を出すところから、より幹の太いものに育てていく段階、その2つ目のステップについて、ちょっと薄い感じがする。クラブの自立に向けた取組のニュアンスがあるといい気がする。

○晴山副会長

子どもの体力向上に関しても、子どものスポーツ体験機会の必要性が書かれていて、教室やイベント等、色々なものが行われているが、その中身がマンネリ化していないかどうか。ある教材開発の研究会では、発表会を行い、内容を高めていくための取組を行っている。

地域スポーツについても、子どものスポーツや体力向上ということについても、そういう視点が必要だということは共通しており、でき上がったものを充実させていくことについて言葉を補い、そういうニュアンスを伝えたいと思う。

○霜觸会長

地域に開かれたクラブを育成していき、なおかつ、その活動も支援していくということで良いと思うが、検討いただきたい。

趣旨は、正に先生が仰ったとおりで、これからは、そこに力点を置かないといけない。地域を活性化していくという目的があるので、そのところを別な側面からもやらなくてはならない。

体育振興会とスポーツクラブについては、継続的に検討を行うこととして、まずは項目だけでも挙げておけば良いと思う。

これは10年計画であるので、育成や継続的な活動支援を行いながら、10年後にどうなっているのか。その時点で先生が仰ったような動きが、もっと出て来るのかどうかということである。

○山本委員

今、仕事で日本体育協会のクラブ育成支援に関わっていて、アクションプランを策定しているところだが、そこで使われている言葉が「育成支援」や「自立支援」という言葉で、同じ支援でも質が異なる。

クラブというのは、根本的には地域住民がつくるもので、必要最小限の支援で良いと思う。むしろ本質的には手厚く行政がつくるようなものではないので、市民が自分達でつくるものをどう支援するかということになる。

その中で、交流を増やしたり、次世代を育成したり、または経済的に自立していくための方向付けやネットワークづくりといった契機には、やはり行政がある程度の枠組みを作っていく方が良いと思うので、それを考えた時のニュアンスとしては、もう少し具体性があった方が良いということである。

もちろんこの計画案は、それを含んでいるので、文言としては間違っていないと思うが、どこまで掘り下げるかという話で、もう少しこの施策を広く、厚くするのであれば、そのような内容を盛り込めばボリュームが増え、イメージが湧きやす

いと思う。

○霜觸会長

とにかく、地域スポーツクラブや体育振興会、スポーツ推進委員については、この分野でもう一つ審議する必要があると思われる。項目としては出しておき、この計画の延長線上で議論することで良いのではないかと思う。

○事務局（石川企画事業課長）

今の山本先生のご意見は、今後検討を要する取組の中で、「拠点づくり」という、クラブに対するスタート支援の項目しかないところについて、実際にクラブができた後に、自立ができるような支援やクラブ間ネットワークづくりに対する支援といった項目を厚くするようなイメージで良いか。

○山本委員

その通り。

○霜觸会長

札幌には体育振興会があるが、総合型地域スポーツクラブだけを指すのか、体育振興会を含めて考えていくのか。

体育振興会に対しては、今、行政が継続的に支援をしており、その活性化のための検討も行っているので、「総合型地域スポーツクラブ・体育振興会の」等、体育振興会の名称を出しておいた方が良い。

○堀内委員

札幌市の体育振興会も、十分に地域スポーツクラブとしての活動を行っている。名称が未だに体育振興会であり、一方で総合型地域スポーツクラブもあって重複している。市民としては何が違うか分かりづらい。それを一本化した方が、行政としても、もっと分かりやすいと思う。

○霜觸会長

ここ項目の体育振興会と地域スポーツクラブの扱いは、初めて読んだ人もしっかり分かるような表現が必要。検討していただきたい。

○晴山副会長

4 5 Pの図には、体育振興会とスポーツ推進委員と市民、行政しかなく、狭く、限定された表現である。

○霜觸会長

体育振興会の欄は「総合型地域スポーツクラブなど」となるだろうか。必ずしも体育振興会だけではないと思われるが。

○伊藤委員

この中に含まれると思われるので、図に表した方が良い。

○霜觸会長

実際に活動している総合型地域スポーツクラブもある。

○晴山副会長

市民以外で、行政ではない団体が全部ここに入ってくないとおかしい。

○霜觸会長

町内会を入れると膨らみ過ぎるかもしれないが、ここは体育振興会に限定しない方がよい。

○晴山副会長

まちセンや地域の会館のようなところ集っている活動もある。

○伊藤委員

老人クラブもやっている。

○霜觸会長

「体育振興会など」くらいにして、含みを持たせた方がよいと思う。

○事務局（石川企画事業課長）

本文では、「地域コミュニティにおいて、地域の安全、安心の維持などの課題を解決するためには、地域ぐるみでの取組が大切になります」という表現で、スポーツ推進委員とか体育振興会には何も触れていないにも関わらず、この図表が出てくるので違和感がある。

○霜觸会長

それでは大筋よろしいか。

時間が来たようなので、本日の審議会については、これで終わりとしたい。

（２）その他

特になし

３ 閉 会

以 上